地　理　歴　史

世界史Ａ，世界史Ｂ

第１　高等学校教科担当教員の意見・評価

世　界　史　Ａ

１　前　　文

「世界史Ａ」の追・再試験については，本試験の前文で言及した受験者数や平均点等についての分析は避け，出題方針，内容および難易度等について考察したい。

なお，評価に当たっては，報告書（本試験）14ページに記載の８つの観点により，総合的に検討を行った。

２　内　容・範　囲

（1）評価の観点

年度・出題数 設問形式	令和４年度 出題数	（　出題率　）
主に知識・技能を評価するもの	25	（ 83.3 ％ ）
主に思考・判断を評価するもの	5	（ 16.7 ％ ）
合　　計	30	（ 100.0 ％ ）

（2）分野別の出題数・出題率

年度・出題数 分野	令和４年度 出題数	（ 出題率 ）
政治史	20	（ 66.7 ％ ）
社会経済史	4	（ 13.3 ％ ）
文化史	6	（ 20.0 ％ ）
複数分野に関わる	0	（ 0.0 ％ ）
合　　計	30	（ 100.0 ％ ）

＊知識・技能を評価する問題と思考・判断を評価する問題の分類は、評価・分析委員会の判断による

（3）時代別の出題数・出題率

年度・出題数 時代	令和４年度 出題数	（　出題率　）
古代史	1	（ 3.3 ％ ）
中世史	3	（ 10.0 ％ ）
近世史	6	（ 20.0 ％ ）
近代史	9	（ 30.0 ％ ）
現代史	7	（ 23.3 ％ ）
［うち戦後史］	2	（ 6.7 ％ ）
複数時代混合	4	（ 13.3 ％ ）
合　　計	30	（ 100.0 ％ ）

（4）地域別の出題数・出題率

年度・出題数 地域	令和４年度 出題数	（　出題率　）
西欧・北米	8	（ 26.7 ％ ）
東欧・ロシア	2	（ 6.7 ％ ）
東・内陸アジア	7	（ 23.3 ％ ）
南・東南アジア	3	（ 10.0 ％ ）
西アジア・アフリカ	5	（ 16.7 ％ ）
中南米・オセアニア	1	（ 3.3 ％ ）
複数地域に関わる	4	（ 13.3 ％ ）
合　　計	30	（ 100.0 ％ ）

中世（5c～14c）・近世（15c～17c）・近代（18c～19c）・現代（20c～）を判断の目安とする。

第１問　世界史上の建築物

問１　元朝の領域の拡大について正しい文を選択する問題。資料から王朝を元と読み取った上で，その支配領域と周辺の地域について地理的，歴史的に理解しているかを問う二つの知識を問う工夫がなされている。

問２　清朝の実施した政策について正しい文を選択する問題。二つの知識を問う問題で，資料から王朝を清と読み取った上で，その政策に関する包括的知識を問う問題である。

問３　国民党と共産党の提携に関する説明と国民党の指導者の名称について，正しい組合せを選択する問題。人物名に加えて歴史的事象の背景を問う設問である。

問４　オスマン帝国の君主の名称と建築物の歴史的変遷について，正しい組合せを選択する問

題。リード文を読み取った上で，建築物の宗教的役割の変遷について考える設問で思考力等を問う良問である。

問５　アヤ・ソフィアの写真から尖塔の名称を問う写真資料の読み取り問題。名称を問うにとどまらず，包括的な問いとなっているが，例えば尖塔が設置された理由や，その用いられ方に関連する問題に発展させると思考力等を問う問題になったかもしれない。写真そのものを出題に利用した点は評価できる。

問６　リード文よりケマル＝パシャを特定し，その事績について述べた正しい文を選択する問題。二つの知識を問う問題となっている。

第２問　隣接する２カ国の関係

問１　英仏のライバル関係について，生徒の会話文の正誤を問う問題。正答以外の会話にも正文を含めた上で,英仏両国のライバル関係に関する具体的な理解を判断させる設問にすれば,思考力を問う問題となったかもしれない。

問２　ウィーン体制について正しい文を選択する問題。設問文よりウィーン体制を特定し，その特徴を選択する事実的知識を問う問題。「特定の国がヨーロッパを支配すべきでない」という資料中の文の内容に関連して，具体的な歴史的事象について問う設問にすれば，難易度は上がるだろうが良問となったかもしれない。

問３　国名の選択と資料の著者の主張についての正誤組合せ問題。やや単純ではあるが，資料より筆者の主張を読み取る思考を問う設問である。

問４　３つの資料を年代順に配列させる問題。資料の内容を判断し，その上でロシアの対外関係の大きな流れの理解を踏まえた上で年代順に並べる問題であり，思考を問う良問である。

問５　条約の締結を契機に建設された都市を選択する問題。資料の内容を踏まえ，選択肢の都市の地理的，歴史的知識を問う問題で，包括的な知識を問うている。問４との連動性が意識された問題としても評価できる。

問６　文中下線部に示された国の歴史について誤っている文を選択する事実的知識を問う問題。資料の内容と関連させた設問となるとよい。

第３問　世界史の授業

問１　エリザベス１世治下の出来事について正しい文を選択する事実的知識を問う問題。17世紀のイギリスが海外へ発展する視点を問う点で，正答選択肢が会話文の内容とも関連している。

問２　会話文中の空欄に入る正しい語句と文の組合せを選択する問題。例えば，ナポレオンの時代と関連させて，この時期にまだエジプト文字が解読されていないことに気づかせる設問などで，会話文や提示された図とより関連が深まる問いに発展した可能性がある。

問３　北アフリカの歴史について波線部の正しい文を選択する事実的知識を問う問題。

問４　塩金貿易に関連して，文中の空欄に入れる語句と文の正しい組合せを選択する問題。西アフリカ地域に関する基本的な知識を問う問題である。

問５　資料でテーマとなっている塩と関連させて，物質の流通や利権をめぐり生じた出来事について正しい文を選択する事実的知識を問う問題。資料と設問との関連という点で，例えば黄巣の乱など塩と世界史とに関連する歴史的事象を取り上げることで，よりリード文と関連性の深い設問となった可能性がある。

問６　資料に関連してイギリスの19世紀の様子を問う事実的知識を問う問題。

問７　シパーヒーの説明に関する知識と，資料の読み取りを組み合わせた正誤組合せ問題。例えば，最後の生徒と先生の会話による説明を省略することで，概念的理解を問う良問になっ

た可能性がある惜しまれる問題である。

第４問　戦争と平和に関する人類の知恵の歴史

問１　原子力や核兵器に関連して誤っている文を選択する事実的知識を問う問題。語句に関連する知識問題である。

問２　選択肢文中の歴史的出来事を踏まえてグラフを読み取る正誤の組合せ問題。時代の特徴などを把握することで，細かな年号の暗記に頼らずに，内容の正誤を推測することができる点が評価できる。ピンポイントな歴史的事象ではなく時代背景などとするなど，選択肢をさらに工夫することで，その意図は強調できると思われる。

問３　リード文よりアレクサンドル２世を特定し，その事績について正しい文を選択する二つの知識を問う問題。クリミア戦争の敗北によって，ロシア皇帝が自国の後進性を意識して農奴解放令を出したという歴史的文脈の理解からも，解答にたどりつくことができる問題である。

問４　文中空欄よりオスマン帝国を特定し，グラフの読み取りとの正しい組合せを選択する問題。後者はグラフの読み取りの問題となっているが，Ｘ・Ｙの選択肢が正誤の表裏の関係となっている点は，今後選択肢を作成する際に改善をお願いしたい。

問５　リード文より国際赤十字を選択する知識を問う問題。

第５問　世界史上の異文化接触について

問１　リード文の文章よりムガル帝国を特定し，その時代に生じた出来事と，下線部(a)の歴史的背景の正しい組合せを選択する二つの知識を問う問題。最初の選択肢は単に名称を問うだけでなく，皇帝の政策の内容を問う工夫がなされており，二番目の選択肢は当時のインドが仏教的世界となっていない背景を問う概念的知識を問う問題となっている。

問２　文中下線部の玄奘と同時代の中国の王朝について正しい文を選択する知識問題。

問３　ベトナムの歴史について，正しい文を選択する事実的知識を問う知識問題。

問４　文中と同時代の16世紀の世界について，正しい文を選択する問題。基本的な知識問題。

問５　資料の文中よりアウグスブルクを特定し，歴史的事象との関連について選択する問題。

問６　文中空欄に入る語句について，グーテンベルクを選択する知識問題。

３　分　量・程　度

計30問と設問数が減少したこともあり，分量としては受験者が余裕を持って時間内に解ききることができる適切なものであった。リード文や資料が多く採用され，受験者にとって初見の資料も多く，出題に工夫をこらした様子がうかがえる。難易度は標準的であったと考える。

4 は，建築物の歴史的変遷を，資料の読解と宗教建築物に関する知識から判断させる問題で，今日のトルコの情勢が建造物の性格変更に影響を及ぼしていることにも気づかせる良問である。11 は，資料にある条約の内容を理解した上で，選択肢の都市の地理的・歴史的知識に基づいて解答する良問であるが，知識のみで解くことのできる者もいただろうと推測される。21 は，グラフから読み取った時代の特徴や傾向を基に，歴史的出来事についての関係性を考察させる良問である。出来事の正確な年代が分からなかった場合でもその内容から解答を推測することができる。25 は，資料より，17世紀のインドが仏教世界ではないことを確認し，その歴史的背景を問う良問であるが，例えば幾つかの地図を示し，その世界観と歴史的事実を結びつけた設問や，リードの文後半と関連付けて様々なレベルでの文化の融合について問う設問など，設問を発展させる可能性がある題材だと思われる。

一方，課題となる点は，事実的な知識の確認に終始する設問が引き続き多く見られる点である。

5 , 24 , 30 などは単純な語句を問う設問である。リード文や会話文の流れとは関係のない設問も多く，また，資料が提示されていても 9 , 19 , 23 のように，歴史的な知識を必要としない資料の単純な読み取り問題と知識問題とあわせた設問も多く見られる。このような設問では，資料の読み取りからはあまり差がつかず，知識問題の正否が点数に関連している設問も存在した。例えば 19 では，難易度は上がるだろうが，「封建的」という内容に関する設問や，ネルーのその後の活動と関連させた設問の可能性も考えられるのではないだろうか。

4　表　現・形　式

生徒と教師の会話，写真などの図像資料やグラフ，文字資料など，設問の表現の工夫が随所で見られた。取り上げた資料も受験者にとって初見のものが多いだろうと思われ，題材の意欲的な選択が見られる。一方，資料の設問への反映については，今後さらなる改善をお願いしたい。例えば，写真や図像資料については，図から読み取るべき内容を文中で説明してしまっているものも多く，図像の読み取りを直接設問と関連させたものを今後さらに増加させていって欲しい。例えば， 5 で，ミナレットが付けられた理由を推定させる問題を想定することで，より効果的な図像資料の提示につながるものと考えられる。

また，第３問Ｃの問題なども，難易度は高くなるだろうが，生徒と先生の会話を活かして，甲午農民戦争がかつて「東学(党)の乱」と呼ばれたことなどと関連付けて，歴史的事象を示す用語の変化と，その背景を探る設問などに発展させることもできると思われる。

5　ま　　と　　め（総括的な評価）

全体を通じて，単にその語句の名称を問うだけの問題ではなく，資料より該当する語句を想定し，その上でその語句に関連する時代や政策等について理解を問う設問が多く見られた。今後，歴史的事象の概念的知識を求める問題を，さらに増加させていって欲しいと思う。この点について，例えば会話文やリード文において，設問で問いたい内容に関して説明する部分をより少なくすることで，第５問Ａ 25 のように概念的理解を問う問題として，時代の特徴を問いにしたり，または抽象度を上げた問いにしたりする設問につなげていくことが，可能ではないかと思う。

リード文や大問のテーマと実際の設問については，旧来のセンター試験と比べてその関連性が深まっており，今回もその傾向が確認されたと思う。その一方で大問と設問との方向性が一致していない設問も残念ながらまだ見られる。大問のテーマ全てに設問を合致させることは難しい作業だとは思うが，問い全体のテーマと実際の設問との乖離は，受験者によるリード文や会話文軽視の傾向を促進させることに繋がりかねない。せっかくの大問のテーマを受験者に印象づけるためにも，テーマに即した設問の作成を可能な限り工夫されるようお願いしたい。

今年度も資料を読解する問題が多く出題されている点も評価できる点である。また，例えば 4 の問題に見られたように，単純に文章を読み取るだけではなく，読み取った内容と歴史的知識をもとに思考させる設問については，今後さらにその数を増やして欲しいと思う。さらに，例えば，問題文で仮説を提示した上でその仮説の妥当性を根拠に基づいて考えさせる問題や，逆に提示した資料から読み取ることができる歴史的事象についてどの程度妥当なのかを判断させる問題など，論理的整合性を重視した問題へと発展させていって欲しいと考える。この点では，グラフや図像資料を用いて，これらの資料から何が読み取ることができて，何は読み取ることはできないのかを問うなど，資料の示す内容とその特性，限界について考えさせる問いを設置することで，非常に効果的な図像資料やデータの活用ができるのではないかと考える。設問の形になるまでには困難もあると思うが，是非検討いただきたい点である。

なお，今回の評価・分析委員会では，知識のみ，または情報の読取り，またはその両方のみを必要とする設問を「知識・技能」と分類し，考察，構想，説明・議論する力を問うている設問を「思考・判断・表現」と分類した。最後になったが，様々な要因に目配りしつつ，多様な受験者にも対応しうる入試問題の作成に心を配り，多大なエネルギーを使って作題された皆様の御苦労に感謝申し上げる。

世　界　史　B

1　前　　文

「世界史Ｂ」の追・再試験については，本試験の前文で言及した受験者数や平均点等についての分析は避け，出題方針，内容および難易度等について考察したい。

なお，評価に当たっては，報告書（本試験）14ページに記載の８つの観点により，総合的に検討を行った。

2　内　容・範　囲

（1）評価の観点

年度・出題数 設問形式	令和４年度 出題数	（　出題率　）
主に知識・技能を評価するもの	27	（　81.8　％　）
主に思考・判断を評価するもの	6	（　18.2　％　）
合　　計	33	（　100.0　％　）

（2）分野別の出題数・出題率

年度・出題数 分野	令和４年度 出題数	（　出題率　）
政治史	20	（　60.6　％　）
社会経済史	3	（　9.1　％　）
文化史	7	（　21.2　％　）
複数分野に関わる	3	（　9.1　％　）
合　　計	33	（　100.0　％　）

＊知識・技能を評価する問題と思考・判断を評価する問題の分類は、評価・分析委員会の判断による

（3）時代別の出題数・出題率

年度・出題数 時代	令和４年度 出題数	（　出題率　）
古代史	6	（　18.2　％　）
中世史	3	（　9.1　％　）
近世史	8	（　24.2　％　）
近代史	9	（　27.3　％　）
現代史	3	（　9.1　％　）
［うち戦後史］	0	（　0.0　％　）
複数時代混合	4	（　12.1　％　）
合　　計	33	（　100.0　％　）

（4）地域別の出題数・出題率

年度・出題数 地域	令和４年度 出題数	（　出題率　）
西欧・北米	17	（　51.5　％　）
東欧・ロシア	1	（　3.0　％　）
東・内陸アジア	7	（　21.2　％　）
南・東南アジア	1	（　3.0　％　）
西アジア・アフリカ	4	（　12.1　％　）
中南米・オセアニア	2	（　6.1　％　）
複数地域に関わる	1	（　3.0　％　）
合　　計	33	（　100.0　％　）

中世（5c～14c）・近世（15c～17c）・近代（18c～19c）・現代（20c～）を判断の目安とする。

第１問　挿絵や風刺画

問１　会話文中の国名の空欄補充と，中央アジアを経由するという解説から陸路であることを仮説とすることの組合せを選択する問題。オスマン帝国に関する知識と単純な読み取りの組合せ。

問２　会話文中の説明を空欄補充する問題。明とその時代背景についての知識問題。

問３　会話文中の空欄となっている国についての説明を選択する問題。空欄の国を想定し，さらにその国の説明を答えるという，二つの知識を関連させた問題。

問４　19世紀末の仏で新聞が普及していることの要因を選択する問題。選択肢の設定から時期を限定して消去法により正答できる点，また④の表現が紛らわしく細かな知識判定をさせてしまっている点があるが，メディア・大衆化という概念的な知識について，推論を問う問題である。

問５　自然主義の作品と作者の組合せを選択する問題。事実的知識を問う問題。

問６　会話文中の空欄の事件を特定し，その説明を選択する問題。事件名だけを暗記するのではなく，その経緯や背景を捉えられているかなど，包括的知識を問う良問。

第２問　アメリカ大陸の歴史

問１　会話文中の下線部についての説明を選択する問題。ブラジルの宗主国としてポルトガルを想定し，さらにその歴史について選択させる，二つの知識を関連させた問題。

問２　ラテンアメリカの宗教についての説明を選択する問題。「前の文章を参考にしつつ」の文言は必要ではなく，事実的な知識の有無で解答できる。

問３　会話文中の空欄補充の組合せ問題。空欄同士の関連性はやや薄い，事実的知識問題。

問４　資料の読み取りとその時期に関する知識の問題。タブー視されることの多い，負とされる過去を正答とした点が，新たな一歩として評価できる。資料の読取りを正答選択肢以外の選択肢においても示せば，さらに良問となりえた。

問５　イギリスの選挙権拡大の時期を年表から選択する問題。年表中の出来事の前後関係から思考させる意図があると思われるが，最終的には第３回と第４回の選挙法改正を判別させる細かな事実的知識を問うものとなってしまっている。

第３問　人の移動の歴史

問１　会話文中の空欄の用語と人物の組合せを選択する問題。

問２　日記に記述されている内容を時代順に整序する問題。日記の書かれた時制が不問にされており，資料を活用する設定としては更に丁寧な姿勢が求められる。設問は，読み取った情報をもとに，知識を踏まえて，関連性を考察する良問。

問３　地図から空欄の国を特定し，その国についての説明を選択する問題。二つの知識を同時に問うている。地理的な知識とポーランドの歴史的知識を関連づけさせた包括的な知識を問うた良問。

問４　会話文から一民族によって構成された国民国家という概念を捉え，その説明と具体的事例の組合せを選択する問題。同君連合との対比を際立たせたり，会話文中のヒントを調整したり，選択肢の具体例を吟味するなどの余地はあるが，概念化とその演繹を問う良問。

第４問　歴史研究における資料比較

問１　資料から時代や国の関係性を読み取って空欄の民族を特定し，資料から読み取れるソグド人の役割の組合せを選択する問題。既習知識と初見の資料を組み合わせることによって，資料の有効な活用により，考察を導く設問として良問といえる。

問２　資料中の空欄の王朝を特定し，その王朝についての説明を選択する問題。二つの知識を関連させる問題。

問３　リード文中の下線部に関する出来事と，リード文の解説から２つの資料の時間差と，その間の経緯を理解し，空欄を補充する組合せる良問。時制に着目しながら，推移や変化を考察させるもので，歴史科目の問題として適切な設定である。リード文や選択肢が直接的な説明であるために単純な読み取りで解答できる側面もあるので，選択肢の表現がリード文を歴史的な理解として言い換えるようなものとなれば，より思考を問うことができたと思われる。

問４　リード文中に下線部に関する説明を選択する問題。事実的知識問題。

問５　資料の内容から既習知識を連想させ，適切な結びつきを選択させる問題。単純な知識の有無を問う設問とならないように，読み取れる情報を調整するなど，資料の提示の仕方に工夫の余地はあるが，資料そのものを特定し，その情報を基に，包括的な知識を問おうとする問題で，良問となり得たと思われる。

第５問　歴史研究における視点

問１　中国の時代区分について二つの資料の異なる主張を読み取り，根拠と結論が適切な組み合わせとなっているものを選択する問題。時代区分について異なる学説を踏まえた，時代概念の理解を基に，思考力等を問うた意欲的な出題，良問である。

問２　問１の概念的理解を踏まえ，それと連動して，同様の時代区分を主張している資料を選び，また主張の根拠について既習知識を補って理解し，その組み合わせを選択する問題。複

数の資料の類似・差異に着目させた点が良問である。

問３　リード文中の空欄の国と，別の空欄の国に関する事柄の組合せ問題。リード文中のヒントを精査することで，時代背景の大きな理解を問うことができたのではないか。

問４　リード文の解説に既習知識を合わせて，適切な説明を選択する問題。既習知識のみで正誤判定できる選択肢が混在しているが，正答は読み取った情報と知識を関連させたもので，評価できる問題である。

問５　リード文中の下線部に関して適当な説明を選択する問題。単純な知識問題。

問６　二つのグラフの読み取りから時期判定をして，選択肢の知識と関連させる問題。時期判定が知識からなされる問題となってしまっており，資料の活用が不十分である。二つのグラフを総合させた読み取りをさせることが望ましい。

問７　リード文の下線部に関して適当な説明を選択する問題。事実的知識問題。

第６問　世界史上の建築物

問１　リード文の下線部に関して適当な説明を選択する問題。事実的知識問題。

問２　リード文中の王朝名から場所を特定し，地図から選択する問題。場所の把握について，二つの知識を関連させた問題。

問３　資料から読み取った情報を基に，年代を判定させる知識問題。

問４　問題文中の解説から人物を特定し，その人物についての説明を選択する問題。問いかけ文を見れば空欄の人物が特定できるが，二つの知識を関連させる問題。

問５　リード文から時期を特定し，他の事がらとの時代整序をする問題。何らかのテーマに基づいた年代整序とすれば，そのテーマの変容や推移などを考察する設問となったのではないか。

問６　リード文の下線部に関して適当な説明を選択する問題。事実的知識問題。

３　分　量・程　度

分量はやや多い。難易度は標準である。知識問題については様々なバリテーションがあり，難易度も様々であった。思考を問う問題についても，様々な難易度のものが考えられる。知識の有無に依拠しない設問によって，難易度が調整できるようであることが望ましい。

知識問題については，次のような分類を行った。5，9，12，19，25，27，28，33は事実的知識問題である。できる限り大問のテーマに沿うことで，知識の意義をさらに感じさせる設問になるであろう。3，7，14，17，31は二つの知識を関連させて正答に至る問題である。一問一答的な知識でなく，総合的な知識が得られているかを問う狙いがあると思われる。6は，事象の名称だけの暗記ではなく，その内容や背景などを含めた包括的な知識が獲得できているかが問われている。15では国民国家，21，22では中世・近世といった概念的知識を扱う出題がなされた。全体として，単純化された暗記学習を脱しようとする出題傾向であり，今後も知識の繋がりや広がりを問うたり，帰納や演繹を扱った概念的知識を問う出題を期待したい。

４　表　現・形　式

本問にみられる様々な資料活用の様子は，今後の授業実践に対して多くの示唆を与えてくれる。16では，既習知識を踏まえて初見の資料を読むことにより，ソグド人の役割という新たな理解に辿り着いている。資料と知識が関連させられている問題でも，それが新たな理解の段階に到達しないものもある。その場合は既習知識以上の発見がなく，設問としても知識の有無だけで正答できてしまうものになりがちである。16は，この点で，資料が効果的に活用された事例であるといえる。旧来の歴史教育では，過去についての固定化された知識を正確に吸収させることに終始してきた。しかし，学ぶということの本質は，既習知識を結び付けて新たな発見に辿り着いたり，既知の事が

らの捉え直しをすることによって新たな視点を獲得することにある。第１問Ａ明とオスマン帝国の接点，第４問Ｂヘンリ３世と権利の請願の関係性なども，資料を活用することにより，教科書には記載されていない新たな切り口を提示している点が高く評価できる。一方で，生徒に資料を扱わせる授業を想定した場合，資料が常に真実を表しているとは限らない点にも注意を払う必要が出てくる。資料が書かれた時点の時代性，書き手の立場など，資料の中身ではなく資料自体の性質を批判的に検証することは，歴史ならではの思考である。そうした資料の丁寧な扱いを示せるような出題をお願いしたい。

また，知識との組合せではなく，資料の読み取り自体を高次のレベルで行わせているものもみられた。22 は複数資料の類似・差異を考えさせており，また，18 は二つの資料間の時代の変化を捉えさせるもので，良問であったと言える。資料問題では単純読み取りによって正答できてしまうことへの懸念があるが，これらの設問のように，複数の資料を関連させた上で考察を行わせれば，思考を伴った高度な読み取りを行わせる問題となる。一方で，26 は二つの魅力的なグラフがありながら，それを関連させた設問となっていない点が悔やまれるところである。例えば，グラフ１に対して「失業率が上がれば，それへの対応として政府の支出も増える」などの仮設をたて，この仮説をグラフ２によって検証していくような設問もありえたのではないだろうか。

５　ま　　と　　め（総括的な評価）

第５問Ａでは，時代区分に関する問題が出題された。史実そのものではなく，それをどのように捉えるかという解釈や歴史観についての出題がなされたことは，歴史の本質を考える上で大変有意義である。また，この出題では，解釈や歴史観には多様性があり正解が一つに定まらないということを，正答が複数あるという出題形式によって表現している。今後も，こうした出題形式の工夫も含めて，解釈や歴史観に踏み込む出題を積極的にお願いしたい。

問題全体を通して，仮説，根拠，比較，視点などの言葉が目立つようになり，説明する力や議論する力を育む，新しい歴史の授業がイメージされた出題となっている。今後は，そうした力そのものが問えるような出題が期待されるところである。例えば，授業において生徒に仮説を立てさせた場合，その仮説は議論の中で否定されていくことの方が多いと思われるし，仮説とは本来そういうためにあるものである。しかし，本問における仮説の扱いは，教科書記述にそった正しい記述であるというニュアンスが強い。複数仮説がたてられ，それが資料という根拠により肯定されたり，否定されたりしていく様子を設問とすることも可能であろう。こうした仮説検証型の問題では，今回のような複数正答や連動していく問題形式も有効であろうと思われる。

様々な部分で思考を問う意図が感じられた本問であるが，今後はさらに，歴史的思考力とは何かが体感される出題がなされることを期待したい。歴史には，出来事が発生した時，それが資料に記された時，その資料を読むとき，という３つの時制が存在している。これらの時制が曖昧にされることにより，事実認定について齟齬が生じるような事態が，例えば現在の国際問題などでもみられる。こうした問題をどのように解決できるか，時制や資料の立場性に注意しながら冷静に分析できることは，歴史科目特有の思考力であろう。18 では，権利の請願が過去の資料を引用していること，ある期間はその資料が封印されていたこと，それを現在の我々が考察すること，という様々な時制が扱われており，歴史の問題らしい出題となったのではないだろうか。今後も，歴史的思考力が問われ，歴史を学ぶ意義が示されるような出題を期待したい。

なお，今回の評価・分析委員会では，知識のみ，または情報の読取り，またはその両方のみを必要とする設問を「知識・技能」と分類し，考察，構想，説明・議論する力を問うている設問を「思考・判断・表現」と分類した。歴史教育が大きく変化する中で，問題作成にご尽力いただいた委員の皆様に感謝申し上げたい。